

# 常陸國總社宮と龍神山「佐志能神社」



常陸國總社宮の本殿。周囲には龍を描いた彫刻も。



龍神山中腹に位置している佐志能神社の拝殿。

全国にいくつ、神社が存在しているかご存知ですか？

正解は約八万社です。一方で、神様に仕える神職は約2万人しかおりません。そのため、多くの神社は一人の宮司が兼務し、普段は氏子さんの手で管理されていることが通例です。

石岡市・龍神山に鎮座する佐志能神社も常陸國總社宮の兼務神社の一つ。この山の染谷側に高龍神（たかおかみのかみ）を祀る社、同じく村上側に暗龍神（くらおかみのかみ）を祀る社があり、それぞれ染谷佐志能神社、村上佐志能神社と呼ばれています。龍神山は男女の龍が住む山と考えられ、村上側は雄龍、染谷側は雌龍と考えられています。

世界各地に数多く存在する、龍の神話と物語。

柳田國男も舌を巻いた博覧強記の民俗学者、南方熊楠は龍についても詳しく論じています。それによれば、現在は既に滅んでしまった爬虫類の化石が、龍の姿に対する想像を一層膨らませたとされています。

つまり、今はもう存在していない恐竜たちが、龍のイメージの源泉になったと言っているのです。そう考えると、佐志能神社に龍が祀られているのも太古の昔に生息していた恐竜たちの記憶が様々な形を変えて受け継がれているということなのかもしれません。

龍と考えられる想像上の生物の神話や物語は、世界各地に存在しています。英語で龍を意味する dragon はギリシヤ語 drakon に由来します。ギリシヤ神話には様々なドラゴンが登場しますし、古代バビロニアにおけるティアマトのように更に古く遡れる龍も存在します。キリスト教神話においては聖ゲオルギウスの龍退治の物語がよく知られています。

来します。ギリシヤ神話には様々なドラゴンが登場しますし、古代バビロニアにおけるティアマトのように更に古く遡れる龍も存在します。キリスト教神話においては聖ゲオルギウスの龍退治の物語がよく知られています。

洋の東西を問わず龍は巨大かつ獷猛に描かれますが、西洋世界においては人間に敵対する悪の存在、破壊の象徴として描かれていることがしばしばです。

それに対して東洋の龍は大きく恐ろしいのは同じですが、人間に対して知恵や幸運、瑞祥をもたらす存在として崇められることが多いと言えます。中国で皇帝を象徴する黄龍や、日本の龍宮神話など、東アジアの龍は神様に匹敵する存在なので

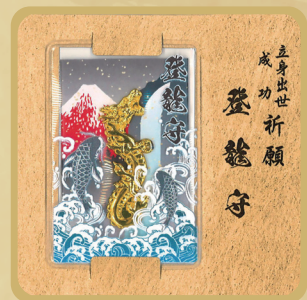
世界の龍に共通する要素としては風雨や雷、雨などを司るとされていること。巨大な爬虫類のような龍の姿は、実在するヘビやトカゲのイメージの影響も指摘されます。彼らの多くは水辺に生息し、時に恐ろしい毒を持つものもありました。

佐志能神社の雌雄の龍神も雨をもたらすと信じられてきました。毎年4月19日の例大祭に奉納される染谷十二座神楽（石岡市指定無形民俗文化財）も雨乞いの意味合いがあります。

龍神山に鎮座する佐志能神社の別名は龍神宮。もしかしたら、遙か昔の恐竜たちの記憶が龍への信仰に形を変えて、神社の由来になったのかもしれない。佐志能神社は常陸國總社宮から車で10分ほど。急な階段にお気をつけてご参拝下さい。

## 龍にまつわる授与品

登龍守 初穂料 千円  
滝を登る鯉が龍になる故事から立身出世・成功を祈願。持ち歩きやすい薄型です。



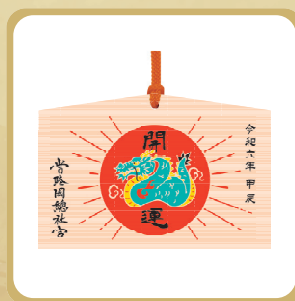
たつのこまもり 初穂料 千円  
かわいらしい子供の龍をお守りに。ストラップつきなのでカバンなどにも結べます。



干支土鈴 初穂料 千円  
干支張子 初穂料 千五百円  
龍をかたどったおめでたい土鈴と張子。玄関や机上に飾って新年を祝いましょう。



干支絵馬(小) 初穂料 五百円  
日出る国である常陸国の太陽と龍の絵柄が縁起の良い絵馬。贈り物にもどうぞ。



佐志能神社  
石岡市染谷二八五六

